

プログラム名	
森のかけらのお守りづくり	
プログラムの概要・ねらい	
・「命ある樹」から「使うものとしての木」へのつながりを理解する。私たちは日常、暮らしの中で用いている木のものは、樹の命をもらって出来ています。「物を大切に作る心」「身の回りのものへの感謝の気持ち」を体験を通して、感じてほしい。 ・香川県産ひのきの間伐材を使用することで、山の手入れの大切さを学ぶ。 ・紙やすりの使い方を学ぶ。木の手触りや匂いを感じながら、作る楽しさを感じてほしい。	
プログラムの分野	
☐ 地球温暖化防止・エネルギー ☐ ごみ・3R ☒ 自然 ☐ 生き物 ☐ 大気 ☐ 水 ☐ その他	
プログラムの対象者	
☐ 幼稚園等(☐ 3 歳児 ☐ 4 歳児 ☐ 5 歳児) ☒ 小学校 1,2 年 ☒ 小学校 3,4 年 ☒ 小学校 5,6 年 ☒ 中学校 ☒ 特別支援学校(☒ 視覚障害 ☒ 聴覚障害 ☒ 知的障害 ☒ 肢体不自由 ☒ 病弱)	
対象人数(1回に実施可能な人数)	
～約 30 人程度(1 クラス)	
実施場所	所要時間
教室・図工室等 室内	※幼稚園等については、原則1時間まで 約 1 時間
プログラムの実施に必要な準備物	
学校、園で準備が必要なもの	新聞紙
団場で準備するもの	ひのきの輪切り・紙やすり・紐・かなづち
プログラム実施に伴う安全上の注意事項、リスクの対処法 ※雨天時の対応など	
紙やすりでひのきを磨きます。 ひのきに対するアレルギーのある児童の有無の確認、家庭への連絡。	

【プログラムの進め方】

	学習内容・活動	写真
導入	①児童に、知っている樹の名前を問いかける。 例)さくら・まつ・みかん・・・。 ②次に、木で出来たものを問いかける。 例)机・椅子・積木・・・。 ③樹 → 木 への変身の流れをお話する。 木を育てて使うという循環(サイクル)を説明。 山で木を切る→山から運ぶ→製材する→製品にする。→山に木を植える。→木を育てる(間伐)→・・・ ④みんなの手元にやってくるまでには、たくさんの人が手をかけていることを伝え、今日、準備している木には、たくさんの人の思いがこもっていることを伝える。 みんなの願いを込めて作っていきましょう！	導入 約 10 分 
展開	⑤森のかけらのお守りづくりを始めます。 紙やすりを使って木片のザラザラがツルツルになるまで削ります。途中で匂いを嗅いだり手触りを確認してもらう。紙やすり(粗目・細目 2 種類) ⑥オイルを塗って仕上げます。 ⑦紐を通しビーズをつけて完成。	 (写真の作品にはビーズがついていますが、このプログラムではついていません) 展開 約 30 分～40 分
確認	⑧どんな願いごとを、お守りに込めたか？感想を聞く。 ⑨まとめ 樹が木になるまでにはたくさんの人の手をかけられている。→感謝の気持ち 紙やすりの使い方を学びました。→今日作ったお守りが欠けたりしたら、また、磨くにつるつるになります。→ものを大切にする心。 日頃使っているカバンなどにつけて、大切に使うよう伝える。	まとめ・確認・片付け 約 10 分

【プログラムのアピールポイント】

- ・樹木→木材への変身を学び、私たち身の回りのものは、何かしらの命をいただいているということを理解し、ものを大切にする心を育くむ。
- ・木を磨くという作業をとおして、つくる事の楽しさを学ぶ。
- ・香川県産ひのきの間伐材を使用することで、身近な山に関心を持つ。

【授業を受けた先生の声】

- ・森林クイズや実際に間伐材に触れることで、間伐や林業についての理解を深めることができた。
- ・工作はみんなとても楽しそうに取り組んでおり、世界に一つだけのオリジナルキーホルダーを作ることができた。